

ソレッテ大阪?

これって何?

メンバー座談会
於 大阪工業技術専門学校図書室

建築家、学生、建築のプロがつくる サッカーチーム「ソレッテ大阪？」

前号では創設の経緯、チームの環境や目的などについて話していただきました。そんな建築サッカーチームが全国から一堂に会するサッカー大会 A-cup に参加することが「ソレッテ大阪？」の目的の一つなのですが、それよりもチームの環境をつくることの方が大切といっはばかりなメンバー達。その訳を今回はもう少し掘り下げて話してくれました。それとやはり A-cup ってどんな雰囲気なのかについてもいろいろと聞いてみました。メンバーのものの考え方をぜひ参考にしてください。

コンセプトとエスキス。

「ソレッテ大阪？」の座談会でコンセプトやエスキスという言葉がでてきて少し戸惑った人がいるかもしれませんね。まずコンセプトというのは、簡単にいうと頭に浮かんだ「考え」と思ってもらえればよいでしょう。いいアイデアを「つかんだ」というイメージが近いです。作品の説明をコンセプトと思っている人は、それは違うんだと思ってください。ところで受胎告知図というものをご存知でしょうか？処女マリアの前に天使が降り立ち、イエスを身ごもったことを告げる様子を描いた絵です。これは「コンセプション」をテーマにした絵画といわれます。ここでいうコンセプションとは、「受胎」つまり身ごもることを意味します。生命・精神が内に宿ることがコンセプションであり、コンセプトもそのような意味を持っています。

サッカー大会 A-cup の雰囲気は… 熱い!? ゆるい!?…

司会：建築関係者によるサッカー大会 A-cup はどんな雰囲気なんですか？留学生のバイパディットさんからみてどうですか？

バイパディット：僕がチームに入ったのは先生から誘われたのがきっかけだったんですけど、日本の有名な建築家の人たちと交流できるからというのもありました。実際、A-cup では有名建築家が普通にたくさんいて驚きました。それにみんな熱いんですよ。しかも、天気も暑いんです！（笑）

中平：バイパディットは、ラオス出身で子供の頃からサッカーをしてお兄さんはサッカーのナショナルチームの代表なんですよ。

司会：そんなバイパディットさんからみても大会は熱く感じるんですね。

バイパディット：本当にみんな熱いんだけど、大会自体はゆるいんですね。（笑）

山口：そう。熱いんだけどフワフワしてるっていか。

建築やサッカーだけじゃない環境 そのことが将来を照らしてくれた

司会：今までの話では単純に建築モードとサッカーモードに切り替えて活動をしているということではないですよね。具体的にどんな感じなのか教えてくださいませんか？

古家：僕は学校に閉じこもって、設計製図の課題に取り組んでいたんですけど、正直今していることが、将来にどうつながるかということについては全く見えていなかったんですよ。ソレッテって、皆さんがいておられるように世代や学校を越えてフラットな環境なんですよ。その中っていると建築やサッカーだけの関係では無くなっているんですよ。カラオケにも行く。でも歌わないで作品の講評をしてもらったりなんてこともありましたね。（笑）何だか変ですけど、そうして自分の将来の像が何となく見えてきた気がします。

技術よりもコミュニケーションが大事 チームづくりと建築設計は似ている

高田：今年は僕がコアメンバーとして、チームづくりをしらせてもらったんです。その時に意識したのは人を見て判断していくということなんです。それと「ソレッテ大阪？」のサッカーって何なんだろう？ってことから考えたんです。やっぱりサッカーの技術とかじゃなくてコミュニケーションや人との関係性が大切で、そしてそのための環境を作ることが必要と思ったんですよ。そのことを先生にメールで相談とかもしたんですよ。

吉井：熱いメールが来ましたよ。（笑）

中平：高田君はチームのフォーメーションを考える時に、コンセプトをまず作って、人を見て、そこを読み込んでフォーメーションを組んでいくんですよ。本当に良いエスキスをしているんですよ。（※言葉の意味は右参照）

吉井：そのエスキスが必ずしも格好良くなくても、美しくなくてもいいんですけど彼は言うんですよ。彼は、オーバーエイジ層から女性までみんな出るという関係性の方が大切だって言うんです。

高田：僕はベンチもスタメンも同じように熱いことが一番大切だと思ったんです。

中平：サッカーチームを考えているんですけど、完全にコンセプトワークやエスキスのスタイルは建築と境はないんですよ。



新宮先生 古家君 原さん

ソレッテは居心地の良い「場所」 みんながより良いかたちにしていく

新宮：みんなはサッカーチームって意識よりも、居心地の良い「場所」って感じの方が強いような気がしますね。

奥野：今、気づいたんですけど。建築・サッカーが大前提のように話を進めて来たんですけど、実はそれはあんまり関係なくて、ソレッテは、「場所」なんですよ。それもただの場所じゃなくて、何ものかを生み出す場所なんですよ。というのは先ほどからいろいろなテーマを投げかけられるんですけど、実は本当はあんまり関係のないテーマだったりするんですよ。（笑）そこからみんなが意味を見出して。例えば、チームづくりの話をしていてもそこからコンセプトワークの話に一つ次元が上がって抽象化されたりして、普遍性のあるものを引き出そうとするんですよ。その条件として居心地の良さは大切なんだと思いますね。

でも、居心地にはまるのは危険 軸足は、やっぱり自分の本業！

中平：居心地の良い場所っていいことなんですけど、少し危険だなとも思うんです。軸足はやはり、自分の仕事とか勉強とかにあつてはじめて成り立つ居心地の良さであるってことを自覚しておく必要あると思いますね。

新宮：そうですね。ソレッテに特化しないことが大切だと思いますね。自分の本業との良いバランスが大切なんですよ。



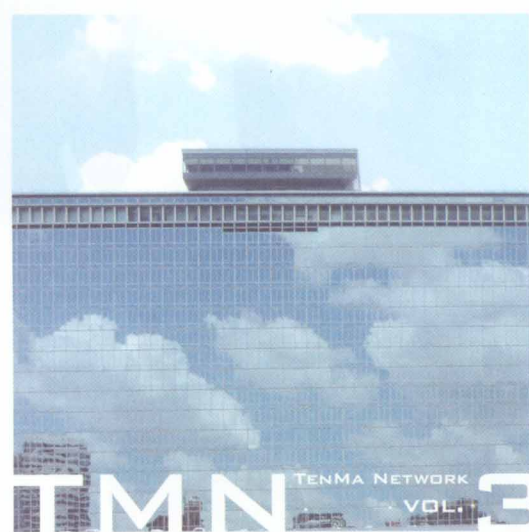
司会：だんだんと面白くなってきましたが残念ながらそろそろ時間です。「建築とサッカーがつながると」ということで座談会をお願いしたのですが正直良い意味で裏切られました。というのはサッカーの実際の作戦やプレーが、建築の思考や実務の現場の有様と似ているなんて話が聞けるのかと思っただけです。（汗）「ソレッテ大阪？」は、試合に勝つことも目的の一つですが、それよりも変化し続けられるチームの環境づくりやコミュニケーションをなによりも大切にしていることがわかりました。実は「ソレッテ大阪？」とは関係性そのものであって、同時に場所でもあるんですね。それを創造のエンジンにしていると感じました。とにかく「ソレッテ大阪？」からしばらく目を離せませんね。本日はどうもありがとうございました。（拍手） *司会(Y)



受胎告知

フラ・アンジェリコ
1430年頃
イタリア
サンタ・マリア・テレ
・グラスイエ
修道院所蔵

そうすると成長せず、創造の源とならない「考え」はコンセプトではないということになります。そしてエスキスは、フランス語で「下書き」「スケッチ」を意味します。建築では図面を描く前に間取りや建物断面などを試行錯誤しながらラフに下書きすることの意味でよく使います。もちろんエスキスは、建築以外のことについても行えます。一人でも二人でもできます。鉛筆でも言葉でもできます。とにかく試行錯誤していくことなのです。ただ人により、決定のタイミングやスピード、スタイルは様々で、エスキスの内容は実はコンセプト以上に多様なかもしれません。またエスキスは決めてしまわないことも大切なんです。しかし、エスキスには必ずしもコンセプトは必要はないのですが、エスキスもある程度の方向性をもって進めることが効果的なような気がします。（Y）



天満橋が学生街だって知っていますか？

意外に知られていないのですが、天満橋は学生街なんです。もちろん本校があるのも天満橋です。大学や高校がこの地域にはいくつもあって、専門学校だけでも本校を入れて10校近くもあるんです。天満橋は美容、福祉、工業、化学、医療、その他様々なことを学ぶ学生たちであふれているんです。そんな学生たちが当たり前のように目にするのが「大阪マーチャントイズ・マート」(上写真、通称 OMM。ガラス張りの外観でとにかく大きいこの建物は、まさしく天満橋のランドマークです。建物全体に空や水を映す姿は、圧倒的な美しさがあります。地階はレストラン・カフェから、郵便局まである地下街となっています。学生たちは、OMMとその向かいの京阪シティモール(通称シティモ)をよく利用します。OMMには「アバンティブックセンター」、シティモには「ジュンク堂書店」という大型書店が入っていて、調べ物をしたり、欲しい本を探したりする様々な分野の学生がいつもいっぱいいます。川沿いのカフェには語り合う学生がいたりして、天満橋は学生が夢を叶える場でもあるんです。（K）

A-cup は、余白も面白い 建築家達と朝まで語り明かす

古家：僕は今回初めて大会に参加したんですけど、確かにゆるさには驚きましたね。ただのゆるさじゃなくて、なんて言うかみんな自然体なんです。だから余計にみなさんの個性を感じたりもしました。

久保田：それでも何百人もの建築関係者が一つのところに集まってサッカーをしていることには圧倒されますね。見ているとゆるいけどやっぱり本気なんです。

奥野：やっぱりこれだけ有名建築家が集まるのはすごいなってつくづく思いますね。

青山：A-cup は、大会そのものだけでなく、余白や空き時間が面白いんですよ。大会のために集まった有名建築家達が、前夜祭で朝の四時頃まで建築について語り明かすんですよ。やっぱり普通に学校で勉強しているだけじゃ、経験できないことですよ。

原：私は今年で二回目の参加になるんですけど、ソレッテそのものもそうだけど、A-cup というのは、「模している」んだと思います。つまり建築とサッカーそれぞれがたとえ合いながら理解を深めている印象ですね。大会を通じてそれを感じていますね。